宇津ノ谷峠　峠を越える旅人体験をしてみよう ● 約2.3km

7世紀頃からの道であるといわれる蔦の細道では、大軍が進行できないため、小田原攻めを行う秀吉公は1590年にこの道を整備し、のちに家康公が東海道としました。標高170m、15度の勾配は、標高210m、24度の勾配のある蔦の細道よりも数段歩きやすくなっています。

❶宇津ノ谷集落

岡部宿と丸子宿の間（あい）の宿であった40戸ほどの集落です。静岡市の都市景観条例で「美しいまちづくり推進地区」に指定されており、地区では「宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会」を設立し、街道の面影のある町並みを保存しています。江戸末期～明治にかけての建物が多く現存しています。

❷お羽織屋

豊臣秀吉が小田原攻めの際、馬のわらじを取り替えるために寄った茶屋です。当時の主人は縁起の悪い「4」という数字を避け、わらじを3本足分だけ渡し、勝利を祈願しました。見事勝利を挙げた秀吉は主人の忠誠をほめて羽織を与えたことに由来しています。のちに徳川家康も訪れて茶碗を贈り、縁起の良い茶屋として参勤交代の大名なども立ち寄っています。

❸慶龍寺

峠にあった地蔵堂の延命地蔵尊（弘法大師作伝）が祀られており、本尊は十一面観音菩薩。人肉を食べる鬼が峠に出没し、旅僧に化身した地蔵が十の玉にして退治した故事にちなんだ「十団子」は室町時代から伝わるものです。毎年8月23～24日の縁日には魔避けのお守りとして販売されます。

❹馬頭観音

頭に馬の冠を載せている二体の観音様が特徴的。約200年前のもので、天保と明治の年号が見えます。馬頭観音は、事故や病気で死んだ馬を弔うために飼い主が建てたものと思われます。色々な種類の石仏のなかで数が多く、道端で目立つのが馬頭観音です。馬が最も重要な運送手段であった時代の人と馬との関係が伺えます。

❺雁山（がんざん）の墓

山口素堂に俳諧を学び、甲府と駿河で活躍した俳人。1727年頃旅にでてから音信不通になり、駿河の文人たちが墓碑を立てたと伝えられています。

❻髭題目の碑

「南無妙法蓮華経」の文字は髭題目と呼ばれる書体であり、日蓮宗のさかんな県東部にはよく見られます。建立は天保6年1835年、発起人は備前の国（岡山県）木綿屋門平とあります。

❼羽倉簡堂 蘿徑記（らけいき）

「蘿」はつた、「徑」は小道を表わします。文政13年（1830年）から9年間駿府代官を務め、歌人でもあった羽倉簡道が文学的に価値の高い蔦の細道が廃道になっているのを嘆いて建立しました。文字は当時「江戸時代の三筆」といわれた市河米庵（いちかわべいあん）によるものです。道路整備における2度の移転を経て、現在の場所にあります。

宇津ノ谷の十団子の伝説

梅林院という寺の小僧が人を食べる鬼になってしまいました。そこで宇都宮の素麺谷の地蔵に鬼退治を依頼。地蔵は僧の姿になり鬼と対峙します。地蔵は2丈（6m）の恐ろしい姿で威嚇する鬼に「汝に神通力があるならば我が掌にのれるか」とけしかけると鬼は小さな丸い塊になり地蔵の掌にのりました。即座に砕き、10個の粒となったものを飲みこんだという伝説があります。十団子は藤枝市岡部では10個の団子を竹串に刺したものを7－8本束ねます。静岡市宇津ノ谷では小粒10個の団子を一連にして9蓮を束ねて魔よけにしています。毎年8月の慶龍寺の地蔵尊縁日では、お守りとして授与されます。

❽木和田川砂防堰堤群

明治43年の豪雨による山腹崩壊を契機に、県が建設した石積砂防堰堤群です。下流から上流に向かって一号、二号の順に八号堰堤まで配置され、立面形状から「兜堰堤（かぶとえんてい）」とも呼ばれており、最大規模は二号堰堤の堤長25mです。明治期の構造形式を踏襲しつつ、台形越流部という近代的技術が加味され、現在は周囲の緑が回復し、石造構造物も一体となって、渓谷の自然景観とよく馴染んでいます。

1号から8号まですべて登録有形文化財です。

❾坂下地蔵堂

農夫の牛が動かなくなった際、地蔵さまの化身の子供が現れて楽に動かしたといういわれがあり、鼻取り地蔵・稲刈り地蔵とも言われています。地蔵菩薩は、インドの大地の神の信仰に起源を持ち、中国に入り地獄に落ちて苦しむ人を浄土に導く仏様として、日本に伝わり、信仰を寄せる者は深い慈悲で接してくれるとして広まりました。峠には「境」として境の信仰＝峠信仰があり、地獄の入口で人を救う地蔵信仰とつながったようです。宇津ノ谷には峠の両側に地蔵が祭られています。

H30.3月 静岡二峠六宿街道観光協議会